

未来に向かって発展し続ける敦賀 新しいステージの実現に動き出す

古くから海と陸の交通の要衝として栄えたまち“敦賀”。今春の新幹線開業で観光客数も好調な伸びを見せる。この新幹線効果を維持、最大化し「敦賀市の新しいステージ」の実現に向けて経済界と行政、市民が一体となって動き出した。

予想以上の開業効果！

敦賀市に高さがおよそ37メートルにする12階建てに相当する大きな駅舎が完成し、待望の北陸新幹線が開業した。

福井延伸の最終駅であり、大阪、名古屋方面からの在来線との乗り継ぎ駅でもある『敦賀駅』。敦賀市は敦賀駅を新幹線と在来線、地域交通がつながるターミナル駅と位置づけ、観光客にとっては観光スポットに誘う玄関口として、市民にとっては普段使いの拠点として、この2面から駅周辺の開発を進めてきた。

中心市街地への玄関口となる敦賀駅西口地区には民間事業者が市有地を借り受け、新たに「TSURUGA POLT SQUARE otta」が誕生。芝生を囲むように約8千㎡の敷地にワンランク上のビジネスホテル、飲食店・物販施設などさまざまな施設

を整備。その中には市民の生活に密接な保育所を併設した子育てサポートセンターもある。施設最大の目玉は、民間と共同でオープンした大型書店「TSURUGA BOOKS & COMMONS ちえなみき」。3万冊以上の本と知育玩具などがあり、1年間で30万人を超える来場者を記録するなど幅広い世代から親しまれている。また、回遊性向上のため各施設をひさしで繋ぎ一体感があり、統一されたデザインとなっている。

駅から続く駅前大通りは、新しい店舗のオープンや出店計画が相次ぐなど開業に向けて着々と準備が進められた。またアル・プラザ敦賀などが立地する白銀交差点から氣比神宮周辺までの国道8号南北約900メートル区間が4車線から2車線になり、歩道が最大約



「TSURUGA POLT SQUARE otta」

7mに拡張された。氣比神宮付近の交差点広場ではクルーズ船の寄港や敦賀まつりなど人出が見込めるイベント時のキッチンカーの出店が定着。